

総務

一 目 統 計

(3町消防事務受託分含む)

消 防 予 算 3,327,639,000 円 (市予算 3.5%)

一 般 会 計 総 予 算 94,580,000,000 円

消 防 職 員 定 数 292 人

市 職 員 定 数 3,139 人

人 口 (委託3町含む) 325,667 人

人 口 の 最 も 多 い 地 区 (四日市市) 四郷地区 26,024 人

人 口 の 少 な い 地 区 (四日市市) 水沢地区 3,524 人

消防車両等 (四日市市)

(常備)	はしご自動車	2台
	屈折はしご自動車	1台
	化学消防自動車	3台
	水槽付ポンプ自動車	7台
	消防ポンプ自動車	4台
	消防ポンプ付給水車	1台
	高所放水車	2台
	泡原液搬送車	2台
	救助工作車	2台
	高規格救急自動車	5台
	救急自動車	5台
	その他車両	36台
	消 防 艇	1隻
(非常備)	消防ポンプ自動車	23台

参 考 (受託3町非常備)

(楠町)	消防ポンプ自動車	6台
	可搬式ポンプ積載車	1台

(朝日町)	消防ポンプ自動車	2台
	可搬式ポンプ積載車	4台

(川越町)	消防ポンプ自動車	1台
	化学消防自動車	1台
	可搬式ポンプ積載車	10台

平成13年度・14年度消防費歳出予算（当初額）（千円）

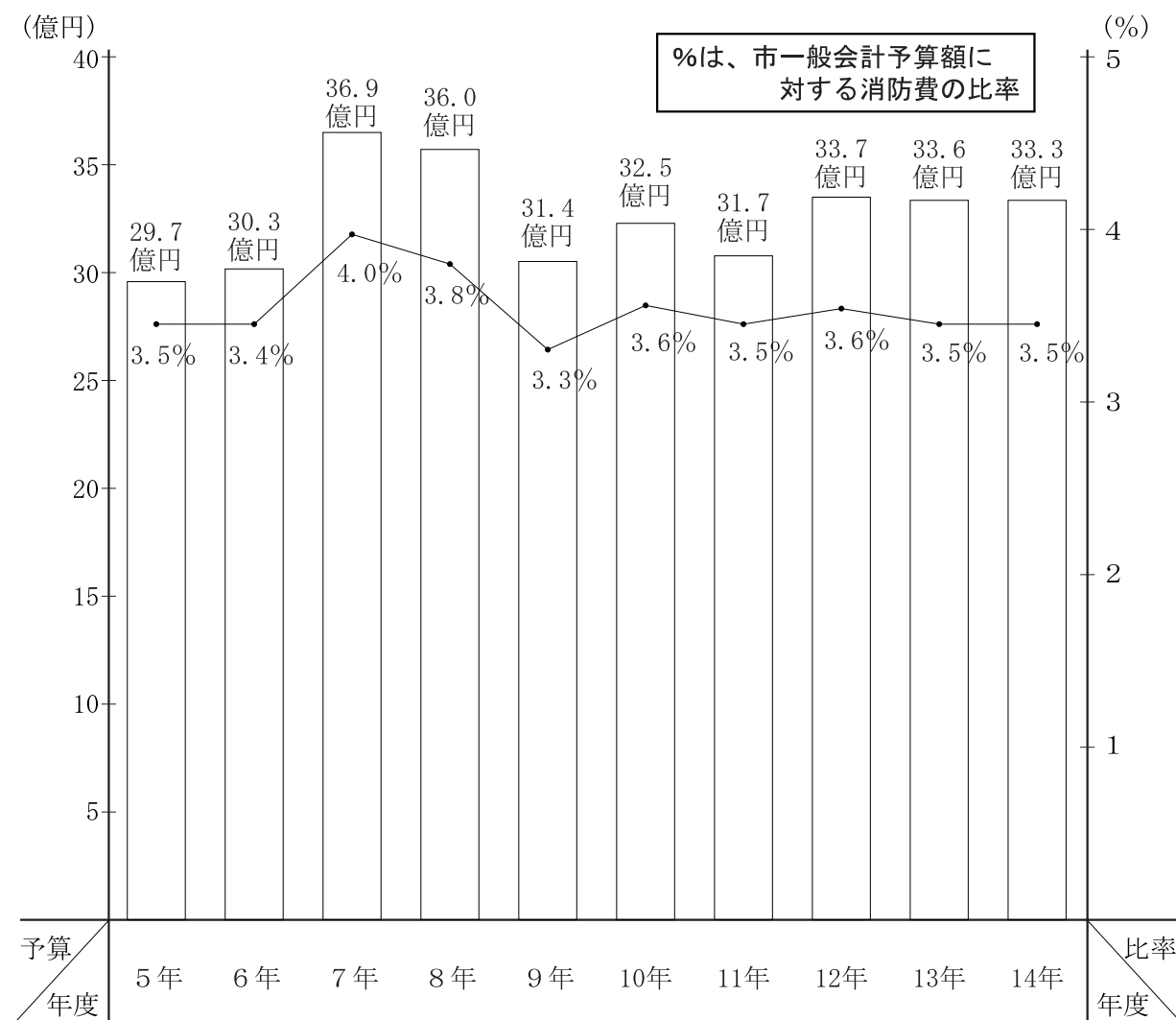
款 項 目	節	平成13年度	平成14年度	比較増△減
消 防 費		3,362,128	3,327,639	△34,489
消 防 費		3,362,128	3,327,639	△34,489
常備消防費		3,043,414	3,051,081	7,667
	給職員手料	1,286,959	1,282,944	△4,015
	共濟費	1,145,203	1,159,973	14,770
	賃報旅交需役委使用料及び賃借料	318,588	319,683	1,095
	賃報旅交需役委使用料及び賃借料	6,732	6,561	△171
	賃報旅交需役委使用料及び賃借料	21,296	20,830	△466
	賃報旅交需役委使用料及び賃借料	5,668	4,711	△957
	賃報旅交需役委使用料及び賃借料	200	200	0
	賃報旅交需役委使用料及び賃借料	96,342	100,819	4,477
	賃報旅交需役委使用料及び賃借料	15,342	14,837	△505
	賃報旅交需役委使用料及び賃借料	71,848	73,147	1,299
	賃報旅交需役委使用料及び賃借料	19,322	23,523	4,201
	賃報旅交需役委使用料及び賃借料	5,420	2,059	△3,361
	賃報旅交需役委使用料及び賃借料	20,493	20,993	500
	賃報旅交需役委使用料及び賃借料	30,001	20,801	△9,200
非常備消防費		94,009	101,454	7,445
	報共災報旅交需役委使用料及び賃借料	12,453	12,453	0
	報共災報旅交需役委使用料及び賃借料	812	812	0
	報共災報旅交需役委使用料及び賃借料	2,097	2,100	3
	報共災報旅交需役委使用料及び賃借料	8,920	8,920	0
	報共災報旅交需役委使用料及び賃借料	39,544	42,593	3,049
	報共災報旅交需役委使用料及び賃借料	150	150	0
	報共災報旅交需役委使用料及び賃借料	12,702	15,753	3,051
	報共災報旅交需役委使用料及び賃借料	15	30	15
	報共災報旅交需役委使用料及び賃借料	1,035	1,063	28
	報共災報旅交需役委使用料及び賃借料	911	1,012	101
	報共災報旅交需役委使用料及び賃借料	685	1,281	596
	報共災報旅交需役委使用料及び賃借料	14,684	15,286	602
	報共災報旅交需役委使用料及び賃借料	1	1	0
消防施設費		217,879	169,499	△48,380
	需役委使用料及び賃借料	1,860	2,230	370
	需役委使用料及び賃借料	316	367	51
	需役委使用料及び賃借料	1,816	2,183	367
	需役委使用料及び賃借料	3,144	2,180	△964
	需役委使用料及び賃借料	45,430	71,100	25,670
	需役委使用料及び賃借料	1,000	569	△431
	需役委使用料及び賃借料	164,313	90,870	△73,443
	需役委使用料及び賃借料	0	0	0
水 防 費		6,826	5,605	△1,221
	報旅需委工事原備負擔金補助及び交付金	33	0	△33
	報旅需委工事原備負擔金補助及び交付金	0	55	55
	報旅需委工事原備負擔金補助及び交付金	2,009	1,927	△82
	報旅需委工事原備負擔金補助及び交付金	391	391	0
	報旅需委工事原備負擔金補助及び交付金	750	200	△550
	報旅需委工事原備負擔金補助及び交付金	1,772	1,800	28
	報旅需委工事原備負擔金補助及び交付金	1,300	650	△650
	報旅需委工事原備負擔金補助及び交付金	571	582	11

消防費に対する人口世帯当り額

年 度 別	消防費(千円)	人 口(人)	世 帯	1人当り額(円)	1世帯当り額(円)
平成10年度	2,900,964	291,366	103,255	9,956	28,095
平成11年度	2,838,626	291,953	104,651	9,723	27,125
平成12年度	3,041,047	292,833	106,170	10,385	28,643
平成13年度	3,035,681	294,249	107,695	10,317	28,188
平成14年度	3,000,104	295,419	109,424	10,155	27,417

※三重郡朝日町、川越町、楠町の消防事業事務受託関係を除く。

過去10年間の消防費の推移



消防職員の推移

(平成14年4月1日現在)

年 度 別	平成10年度	平成11年度	平成12年度	平成13年度	平成14年度	
定 員	293	292	292	292	292	
実 員	消 防 吏 員	292	292	292	291	291
	その他の職員	1	0	0	0	0
	合 計	293	292	292	291	291
消防職員定員増減	-1	-1	0	0	0	

消防職員特殊技能資格取得状況

(平成14年4月1日現在)

資格種別		階級別	合 計	消 防 正 監	消 防 監	消 防 司 令 長	消 防 司 令	消 防 司 令 補	消 防 士 長	消 防 副 士 長	消 防 士
自 動 車 免 許	大 型	型	189		2	6	20	49	71	1	40
	け ん 引		5					2	2		1
	大 型 特 殊		8					3	2		3
自 動 車 整 備 士			6			1	1	1	2		1
海 技 士 (航 海)			5			1		3	1		
海 技 士 (機 関)			3			1	1	1			
小 型 船 舶 操 縦 士 1 級			31			3	5	12	7	1	3
小 型 船 舶 操 縦 士 4 級			30			1	4	12	9		4
小 型 移 動 式 ク レ ーン			162		2	3	18	54	48	1	36
玉 掛 資 格			254		4	7	27	60	74	1	81
ガ ス 溶 接 資 格			210			2	14	46	69	1	78
無 線 技 士	第 2 級 海 上 特 殊 無 線 技 士		14			1	1	9			3
	レ ー ダ ー 級 海 上 特 殊 無 線 技 士		11			1	1	5	3		1
	第 2 級 陸 上 特 殊 無 線 技 士		245		2	4	28	54	74	1	82
救 急	救 急 I 課 程		151		1	8	28	29	44	1	40
	救 急 II 課 程 (標 準 課 程 含 む)		125				8	38	37		42
	救 急 救 命 士		18				2	7	7		2
応 急 手 当 指 導 員			276		1	8	36	67	80	1	83
衛 生 管 理 者			23		2	1	13	5	2		
第 2 種 酸 素 欠 乏 危 険 作 業 主 任 者			37				6	23	8		
潜 水 士			11						2		9

階級別・所属別消防職員配置状況

(平成14年4月1日現在)

所属別		階段別	合計	消防正監	消防監	消防司令長	消防司令	消防司令補	消防士長	消防副士長	消防士
合計			291	1	5	7	36	69	81	1	91
消防本部	消防	計長	1	1							
		長	2		2						
	総務課	計	38			2	6	14	5		11
		課長	1			1					
		課長補佐	1				1				
		総務課付	12(12)					2(2)	1(1)		9(9)
		係	4				1	2	1		
		係	3<1>				1	1			1<1>
	消防救急課	情報指令室	17			1	3	9	3		1
		計	12			1	3	3	4		1
		課長	1			1					
		課長補佐	1				1				
		付	1				1				
		防係	5				1	1	3		
防災センター	地域安全係	4					2	1		1	
	計	⑥									
	所長	①									
	員	⑤									
	予防火課	計	13			1	3	3	5		1
		課長	1			1					
課長補佐		1				1					
予防火係		3					2	1			
保安指導係		4				1	1	2			
消防署	本署	計	95		1	2	10	20	27	1	34
		署長	1		1						
		副署長	1				1				
		指導係	5<1>				1	1	1<1>	1	1
		係	43				3	9	12		19
	西分署	救急係	12				1	3	3		5
		分署長	1			1					
		副分署長	1				1				
		分署員	25				2	5	10		8
		分署員	1				1				
	港分署	分署員	5				1	2	1		1
		計	79			1	1	9	17	25	26
		署長	1		1						
		副署長	1				1				
指導係		4<1>				1	1	1		1<1>	
北消防署	係	44				3	7	15		19	
	救急係	10				1	3	3		3	
	分署長	1			1						
	指導係	2				1		1			
	消防係	16				1	5	6		4	
南消防署	小計	51		1		5	12	15		18	
	署長	1		1							
	副署長	1				1					
	指導係	5<2>				1	1	1		2<2>	
	消防係	35				3	6	12		14	
救急	係	9					5	2		2	
	市長部局へ出向	1			1						

() は派遣職員及び消防学校入校予定職員、< > は女性消防吏員をそれぞれ内数で表し、[] は兼務である
○数字は嘱託職員数

消防職員年令別分布

(平成14年4月1日現在)

階級別 年令	合 計	消 防 正 監	消 防 監	消 防 司 令 長	消 防 司 令	消 防 司 令 補	消 防 士 長	消 防 副 士 長	消 防 士
合計	291	1	5	7	35	68	82	1	92
18									
19	1								1
20	1								1
21	2								2
22	5								5
23	4								4
24	3								2
25	10								10
26	9								9
27	8								8
28	7						1		6
29	9						3		6
30	12						5		7
31	12						6		6
32	8						2		6
33	11						2		9
34	12					1	4		7
35	4						3		1
36	5					1	4		
37	8					6	1		1
38	5					1	4		
39	3					1	1		1
40	8					5	3		
41	8				1	5	2		
42	2						2		
43	9				3	4	2		
44	5				2	2	1		
45	13				4	3	6		
46	4				2	1	1		
47	8				1	3	4		
48	6			1	1	1	3		
49	5				1	3	1		
50	5					2	3		
51	5					3	2		
52	6				2	3	1		
53	17				7	7	3		
54	15			1	6	3	5		
55	10			2	2	3	3		
56	2				1	1			
57	10		1		2	5	2		
58	7		3	1		2	1		
59	6		1	2		2	1		
60	0								
61	1	1							

平均年齢 40.5歳

消防職員勤続年数別分布

(平成14年4月1日現在)

階段別 勤続年数	合 計	消 防 正 監	消 防 監	消 防 司 令 長	消 防 司 令	消 防 司 令 補	消 防 士 長	消 防 副 士 長	消 防 士
合計	291	1	5	7	35	68	82	1	92
0～1	10		1						
1～2	8								9
2～3	7								8
3～4	5								7
4～5	15	1							4
5～6	5								15
6～7	11						1		5
7～8	7						4		10
8～9	6						2		3
9～10	12						4		4
10～11	27						13		8
11～12	5						2		14
12～13	4					1	2		3
13～14	5						5		1
14～15						3			
15～16	5					1	1		
16～17	2						1		1
17～18									
18～19	3					3			
19～20	7				1	4	2		
20～21	11				2	6	3		
21～22	10				1	5	4		
22～23	15				3	5	7		
23～24	8				4	3	1		
24～25	4						4		
25～26	5				3	1	1		
26～27	4				1	2	1		
27～28	6				2	1	3		
28～29	1					1			
29～30	3				1	1	1		
30～31	4			1	1	2			
31～32	9				1	3	5		
32～33	15				3	8	4		
33～34	6				1	3	2		
34～35	7				2	3	2		
35～36	10			1	4	3	2		
36～37	8		1	2	2	2	1		
37～38	8		1	1	1	3	1	1	
38～39	10			2	2	4	2		
39～40	2		1				1		
40～41	1		1						
41～42									

平均勤続年数 18.6年

消防車両配置状況

(平成14年4月1日現在)

区分 所属別	合計	消防車									救急車		その他の車両								艇	
		はしご自動車	屈折はしご自動車	化学消防自動車	水槽付ポンプ自動車	消防ポンプ自動車	消防ポンプ付給水車	高所放水車	泡原液搬送車	救助工作車	高規格救急自動車	救急自動車	指揮車	広報車	立入検査車	乗用車	防災広報車	泡原液運搬車	マイクロボス	軽四トラック	その他	消防艇
合計	71	2	1	3	7	4	1	2	2	2	5	5	1	16	4	2	1	1	3	7	1	1
消防本部	18					1							1	7	1	2	1	1	3	1		
中消防署	14	1		1	1	1	1	1	1	1	1	2		2						1		
西分署	5				2							1		1						1		
港分署	2													1								1
北消防署	11		1	1	2	1				1	1			2	1					1		
北西救急分駐所	1											1										
朝日川越分署	4				1						1			1						1		
南消防署	14	1		1	1	1		1	1		2	1		2	2					1		
防災教育センター	2																			1	1	

消防活動器具等配置状況

(平成14年4月1日現在)

区分	所属別	合計	消防本部	中消防署	西分署	港分署	北消防署	朝川分署	南消防署
呼吸器		136	4	41	15	4	24	13	35
エンジンカッター		9		3	1		2	1	2
高発泡器		6		2			2		2
可搬式放水銃		12		5	1		2	1	3
耐熱服		15		6			3		6
引火測定器		5	5						
ガス測定器		17	4	3	1		3	1	5
各種測定器		35	23	7			2	2	1
救命ボート		4		2			1		1
油圧切断機		6		2			2		2
チェーンソー		5		1			1	1	2
ポートパワー		4		1			2		1
救命索発射銃		6		1	1	1	1	1	1
ガス溶断器		6		2			2	1	1
発動発電機		25	2	10	1	1	1	2	8
排送風機		7		2	1		1	1	2
エアソー		5		2			1		2
救助幕		7		3			2		2
油圧スプレッター		7		3			3		1
マット型空気ジャッキ		4		2			1		1
削岩機		3		1			1		1
耐電衣		4		2			2		
防毒衣		11		9			2		
マンホール救助器具		1		1			1		
高度救助用資機材	画像探索機1型	1		1					
	画像探索機2型	1		1					
	熱画像直視装置	1		1					
	地中音響探知機	1		1					
	夜間用暗視装置	1		1					
エアラインマスク		1		1					
オイルフェンス		1		1					
潜水器具		6				6			

派遣研修

職員研修実施状況

(平成13年度中)

派遣機関	科目	研修期間	受講者数
消防大学校	予防科（第71期）	1月9日～3月20日	1
	危機管理講習会(12回)	4月16日～4月24日	1
	緊急テロ対策特別講習会	1月9日～11日	1
名古屋市消防局派遣	消防部本部指揮隊	11月1日～11月30日	1
救急救命東京研修所	救急救命士養成課程	10月10日～3月25日	1
名古屋市救命士養成所	〃	9月18日～3月26日	1
市町村アカデミー	人事管理事務	5月23日～6月1日	1
	研修事務	12月12日～12月21日	1
	災害に強い地域づくり	1月30日～2月6日	1
三重県消防学校	初任科（第38期）	4月9日～10月25日	8
	救急標準課程（第4期）	10月26日～12月21日	6
	水難救助講習会（第2期）	5月31日～6月8日	3
	梯子自動車講習会	10月2日～10月5日	3
	救助科救助課程（第12期）	11月5日～12月5日	3
	予防科火災原因調査課程（第8期）	12月6日～12月19日	3
	救急科救急6課程（第17期）	2月5日～2月28日	10
	中級幹部科（第13期）	3月5日～3月15日	4
	予防科査察課程（第9期）	3月5日～3月15日	3
市職員研修所	新任課長級職員研修（前期）	4月19日、25日、26日	4
	新任課長級職員研修（後期）	11月5日、6日	4
	新任係長級職員研修	4月18日～5月24日	10
	新任課長補佐級職員研修	6月1日、6月26日	6
その他機関	大型自動車運転免許	年度中	5
	潜水士免許	7月17日	3
	第1級小型船舶操縦士免許	10月12日～21日	1
	第2級海上特殊無線技師免許	6月25日～27日	1
	海技免状失効講習	5月26日	1
	救急コ・メディカルセミナー	9月13日、14日	7
	日本救急医学会東海地方会総会	10月13日	4
	日本救急医学会東海地方会学術集会	2月9日	3
	第2種酸素欠乏危険作業主任者技能講習	10月24日～10月26日	3
	山岳レスキュー講習会	11月17日、18日	1
	小型移動式クレーン運転技能講習	11月1日～3日	2
	全国消防救助シンポジウム	11月27日	1
	第1種衛生管理者免許試験受験準備講習会	12月5日～12月7日	1
	救急医療施設医師研修	10月6日	
	全国救急隊員シンポジウム	1月31日、2月1日	1
	火災調査研究発表会	2月21日	4

消防本部研修

(平成13年度中)

科目	研修期間	受講者数
救急救命士就業前病院研修	4月1日～4月27日	1
感染症対策研修	10月25日	
昇任試験前研修	12月15日、12月17日	21
巡回研修（予防関係講座）	7月～3月	
特別講座	1月22日	87
生物・化学テロ対策研修	3月4日、5日、8日	

平成13年度主要記録

月日	主 な 記 事	そ の 他 の 記 事
H13 4月	4/9・初任科生入校 於：県消防学校 第38期生9人が入校。12月21日卒業。	4/26・小泉内閣誕生
	4/5・消防広場「2001takara桜まつり」開催 宝酒造(株)桶工場内において消防広場を開催。	4/13・第24回三重県消防職員意見発表会 於：伊勢市 三重厚生年金ホール
	4/29・消防広場「笹川ふれあい春まつり」開催 笹川東公園において消防広場を開催。	4/19・全国消防長会東海支部消防職員意見発表会 於：愛知県蒲郡市市民ホール
5月	5/8～6/4 ・作業員宿舎特別査察 千葉県において発生した作業員宿舎火災と同種形態の管内の防火対象物を対象に各署で立入検査を実施。	5/5・千葉県四街道市で従業員宿舎全焼 鉄骨プレハブ2階建て約500㎡を全焼子供ら11人焼死。
	5月中・各署で水防研修	5/17・防火講演会 於：防災センター 「予防行政の動向」 総務省消防庁 予防課 三浦 宏 氏
	5/23・水難救助研修開始(中期研修) 6人が年度内に32回実施。	5/19・桑名市の上空で航空機の衝突事故 大型ヘリとセスナ機が衝突墜落し搭乗者全員(6人)が死亡。 建物2棟全焼、屋根等への被害14件が発生し1人が負傷。
	5/27・消防署一般公開 於：西分署 市民等150名が参加。	5/31・松阪屋四日市店閉店 市民に親しまれながら10年間の歴史に幕を閉じた。
6月	5/29～6/1 ・水難舟艇訓練 於：中 署 水難事故に備え、海蔵川にて救命ボート等を使用して訓練を実施。	
	6/1～30 ・危険物安全管理強調月間 月間中にコンビナート事業所を対象に本部で「防災診断」及び立入検査を各署で危険物保有事業所等を対象に立入検査及び消防訓練の実施。 (消防訓練・コスモ石油、川越火力、J S R等)	6/8・大阪教育大付属池田小に包丁男乱入 児童8人死亡、15人重軽傷を負う。
	6/8～12 ・化学消火薬剤放射訓練 三点セットによる泡放射訓練の実施。	
	6/21～22 ・防火管理講習会開催 甲種防火管理者講習会に161人、乙種防火管理講習会に16人が受講。	
	6/29 ・コンビナート保安フォーラム開催 コンビナート事業所を対象に「今、なにを自主保安か」をテーマに関係事業所の保安体制等の発表とパネルディスカッションを実施。(120人参加) ・優良危険物事業所表彰 平成13年度優良危険物事業所として6事業所を消防長表彰。	

月 日	主 な 記 事	そ の 他 の 記 事
7 月	<p>7/9 ・消防艇遠距離航海訓練 海上の広域災害に備え、伊勢湾内全域（平水区域内）の航海訓練を実施。</p> <p>7/22 ・第 38 回消防団操法大会開催 於：市民公園 23 分団が出席し順位 第 1 位 神前分団、第 2 位 県分団 第 3 位 下野分団。</p> <p>7/30 ・早朝に局地的な大雨 山城地区周辺で 2 時間の総雨量は 154 ミリの降水、坂部町の県道では、道路冠水のため乗用車内から女性 1 人を救助、北山町で民家 2 棟床下浸水。</p>	<p>7/6 ・藤島助役就任 市の 2 人制の 2 人目の助役に総務省出身の藤島登氏（40）が就任。</p> <p>7/10 ・三重県消防救助技術指導会開催 県消防学校で 7 種目に出場し 4 チームが東海大会に出場。</p> <p>7/18 ・第 30 回消防救助技術東海地区指導会 於：名古屋市消防学校</p> <p>7/21 ・兵庫県明石市の花火大会で大惨事 JR 朝霧駅の歩道橋で花火大会の見物客が将棋倒しの事故が発生し子供を含め 10 人が死亡。</p>
8 月	<p>8/1 ・着衣水泳教室 於：羽津北小プール 夏場の水難事故に備え、6 年生を対象に服を着用した講習会を実施。</p> <p>8/15 ・建物火災で 2 人死亡 午前 9 時頃、川島町の民家より出火木造一部 2 階建て約 400 ㎡を全焼し 2 人が焼死。</p> <p>8/17 ・タンクローリー横転事故 川尻町 JSR（榎正門前でタンクローリーが横転し軽油約 170 リットルが漏洩。</p> <p>8/24 ・消防署一般公開 於：西分署 小学生等 100 人が参加</p> <p>8/26 ・合同遠距離送水訓練 大規模災害や渇水時の送水技術向上を図る目的で消防艇を水元にして陸上のポンプ車 10 台による送水訓練。</p>	<p>7/31 ・新消防団長就任 新消防団長に堀善澄氏（62）が就任。</p> <p>8/5 ・港まつり 於：四日市港霞埠頭 消防艇「あさかぜ」による放水ショー。</p> <p>8/21 ・台風 11 号和歌山県串本町付近上陸 大型の強い台風は紀勢、東紀州地域の沿岸添いを通過し豪雨を降らせ県内の被害総額約 58 億 4 万円。</p> <p>8/26 ・四日市花火大会特別警備</p>
9 月	<p>9/1 ・CTY 音声による災害案内の開始 「防災の日」より市民に災害情報をテレホンガイドと併用してケーブルテレビの副音声による広報を開始。</p> <p>8/31～9/2 ・市民総ぐるみ防災訓練 於：笹川団地主会場を笹川公園で、地元住民約 2,000 人のほか、車両 40 台、防災ヘリ 1 機、災害救助犬 2 頭等が参加し情報伝達、広報、交通対策、火災防御訓練等を実施。 ・各地区の自治会等で地区訓練を実施</p> <p>9/3～30 ・雑居ビル特別査察 歌舞伎町の雑居ビル火災の大惨事を受け複数のテナントが入居し、非難階段が 1 カ所しかない 3 階建て以上のビル 49 棟を対象に実施。</p>	<p>9/1 ・東京・歌舞伎町で雑居ビル火災 地上 4 階、地下 2 階建ての 3 階 4 階が燃え 44 人が死亡し、昭和 55 年 11 月の川治プリンスホテル（栃木県藤原町）火災に次ぐ戦後 5 番目の大惨事となった。</p> <p>9/10 ・日本でも狂牛病 千葉県で狂牛病（牛海綿状脳症）感染牛が発見され国内で 3 頭確認された。</p> <p>9/11 ・台風 15 号本県沖合を北上 大型で強い台風は、県の南勢地域に豪雨を降らせ県内の被害総額約 1 億 3 千万円。</p> <p>9/11 ・米中枢同時多発テロ発生 4 機の米旅客機がハイジャックされ、うち 2 機がニューヨークの世界貿易センタービル、1 機が国防省に激突し、1 機がピッツバーグ郊外に墜落した。犠牲者数 3,646 人うち死者約 3,000 人。</p>

月 日	主 な 記 事	そ の 他 の 記 事
9 月	<p>9/11・救急講演会 於：防災センター 四日市医師会長 中嶋 寛 医師 「世界の秘境を訪ねて」</p> <p>9/12・化学製品製造工場火災 午前1時40分頃南小松町のスチロール 工場から出火、鉄骨一部2階建て約 1,460㎡、製品倉庫約720㎡全焼。</p> <p>9/19・県防災へり合同訓練 中消防署は重症患者を大病院へ転院搬ず る陸空合同訓練を実施。</p>	<p>9/29・高速道路防災キャンペーン開催 於：安濃SA 三重県内高速道路消協賛によるキャン ペーンを伊勢自動車道の安濃SAで実施。</p>
10 月	<p>10/2～3 ・防火管理講習会の開催 甲種防火管理者講習会に121人、乙種防 火管理者講習会に49人が受講。</p> <p>10/11.12.15 ・救急隊救急発表会 県立総合医療センター、市立四日市病院 において、救急隊24隊が事前に想定さ れた事案に対応して、救急技術を披露し 医師及び護婦等の検証を受ける。</p> <p>10/21・大規模合同山岳救助訓練 隣接消防本部、警察、消防団、航空隊に よる訓練を鈴鹿山脈水沢峠一帯で実施。</p> <p>10/25・炭疽菌感染防止対策特別研修 アメリカで感染者が相次ぐ炭疽菌事件を 受けて、北勢県民局 四日市保健所福祉 部長兼保健所長の和田文明氏を講師に迎 え「感染症への対応」をテーマに受講し た。(参加職員約110人)</p>	<p>10/ ・米で炭疽菌テロ発生 生物兵器用細菌が郵便物からの感染が判 明し各地で被害が拡大、米政府はバイオ テロと断定、死者5人を含め19人の発症 を確認。</p> <p>10/29・三重県災害支援車を県消防学校に配備</p> <p>10/30～31 ・緊急消防隊中部近畿ブロック合同防災訓練 上野市と名張市の両会場で地震大規模災 害を想定して、中部6県及び近畿2府県 の緊急消防援助隊による合同訓練を実施。 (参加人員 約2万人)</p> <p>11/9・全国消防広報コンクールで優秀賞受賞 総務省消防庁が消防広報技術の向上を図 る広報ポスター部門で、平成12年出初式 ポスターが最優秀賞を受賞した。</p>
11 月	<p>11/3・消防フェスタ21 防災体験フェア開催 イオン四日市北ショッピングセンターで 消防本部、北消防署、防火協会協催。 (ミス四日市1日消防長・署長、119通 報体験、各種防災体験、救助犬演技等)</p> <p>11/9～15 ・秋の火災予防運動 住民一人ひとりに対して火災予防思想の 普及を図るため管内一円において、立入 検査、予防広報、消防訓練、イベント等 実施。(特別消防訓練・スターアイランド)</p>	
12 月	<p>12/7・高規格救急自動車更新 南消防署に配備。</p> <p>12/10・消防分団車更新(BD—I型) 内部分団、河原田分団、富洲原分団</p>	<p>12/1・皇太子妃雅子さま内親王を出産</p>

月 日	主 な 記 事	そ の 他 の 記 事
12月	<p>12/20・霞ヶ浦地区保安担当責任者会議 北消防署で30コンビナート事業者30社が参加。</p> <p>12/28～31 ・年末特別警戒実施</p>	<p>12/4・東名阪で危険物積載車両検査 県内高速道路消防連絡協議会主催により四日市東インターで危険物積載車両の災害を防止する目的で立入検査を実施。</p> <p>12/22・東シナ海で不審船を海上保安庁巡視船の射撃で沈没。</p>
H14 1月	<p>1/7・救急隊病院選定試行開始 病院選定を指令室管制から救急隊管制に切り替え。</p> <p>1/8・救急業務医療的活動検証 県内初の救急車に医師が同乗し救急活動を指導助言して救命率の向上を図る検証医師 三重県総合医療センター救命救急センター長 小島医師</p> <p>1/13・平成13年出始式 四日市ドーム 市民に対し消防力を披露し防火防災意識の普及啓発を図るため陸海空合同で実施。 総出場人員 1,047人 総出場車両 52車両 総出場船艇 2隻4艇 防災ヘリコプター 1機</p> <p>1/20・市民防災隊研修 防災ボランティアの日に市民防災隊連絡協議会は7年前に起こった阪神淡路大震災を教訓として北、中、南の三地区ブロックで災害の備えを研修。</p> <p>1/21～23 ・海中転落行方不明者の捜索 磯津漁港防波堤付近の釣り人が海中に転落し警察、海上保安部と合同で陸海空の捜索活動を実施。</p> <p>1/26・第48回文化財防火運動 文化財愛護思想と防火防災思想の高揚と貴重な文化遺産を後世に継承するため市内一円で消防訓練や立入検査等を実施。</p> <p>1/28 2/5 2/7 ・建物火災消火実践訓練 県消防学校に於いてAFT施設を使用して耐火建築物火災に近い状態を設定して消防救助技術を駆使した実践的防ぎょ訓練を各署消防隊及び救助隊が実施した。</p> <p>2月 2/7～8 ・防火管理者講習会開催 甲種防火管理者講習会に137人、乙種管理者講習会に37人が受講。</p> <p>2/24・消防ふれあい広場 於：朝日スーパーセンター</p>	<p>12/19・亜ヒ酸飛散事故 港地区のガラス製造工場から有害物質の粉塵約8キロが外部に飛散、従業員7人が体に異常を訴える。 なお、1月1日にも飛散事故を起こし前回の事故と合わせ住民78人が体に異常ヒ素検出者18人別に11人が陽性。</p> <p>12/29・ペルー首都リマの商店街で爆発炎上火災 商店街で爆発とともに火災が発生し約1,000人以上が死亡。</p> <p>1/24・出始式写真コンテスト 特別賞 4点、優秀賞 6点を表彰し賞状と記念品を贈る。</p> <p>1/20・ジャスコ四日市店閉店 大手スーパー、イオンの発祥地の店が43年の歴史に幕を下ろした。</p> <p>1/24・桑名郡長島町地内にヘリコプター墜落 小型ヘリコプター(川崎フューズ369HS)がヘリポート離陸後に上空約38mから失速墜落し乗員2人が重症を負う。</p> <p>1/26・海山町で13棟全半焼 午前3時45分頃北牟婁郡海山町相賀の民家から出火、11棟を全焼、2棟が半焼する大惨事が発生。</p> <p>2/26・尼崎市の商店街で店舗火災 25日午後8時45分頃兵庫県尼崎市塚市塚口本町1丁目の商店街で店舗など30数棟延べ面積約3,000平方メートルを焼損する惨事が発生。</p>

月 日	主 な 記 事	そ の 他 の 記 事
2 月	<p>2/28・特別消防訓練実施 春の火災予防運動の一環として(株)中部近鉄百貨店四日市店で訓練を実施。</p> <p>・救助工作車(Ⅲ型)増強 県下初の重装備の救助工作車を中消防署に配備。</p>	<p>3/7・伊勢湾岸自動車道総合消防訓練 三重県、愛知県高速道路消防連絡協議会主催による車両多重事故及び毒劇物車両事故に係る合同訓練が湾岸長島 I C 一帯で実施。(参加人員 162 人)</p> <p>3/11・下水配管清掃で 5 人死亡 1 日午後 2 時 40 分頃愛知県半田市で下水配管の清掃作業中に有毒ガス(硫化水素ガス)により 5 人が死亡した。</p> <p>3/14・救急救命士気管内挿管大臣告示改正へ 坂口力厚生労働相は参院予算委員会で民主党の今井澄氏の質問に、救急救命士にも気管内挿管を認める方針を示し救急救命士法の施行規則に基づく大臣告示を改正すると回答する。</p> <p>3/24・伊勢湾岸自動車道開通 湾岸弥富 I C (愛知県弥富町) からみえ川越 I C (三重県) までの 8.3 キロ区間が開通した。すでに名古屋市の名古屋南 I C から湾岸弥富 I C 間 16.3 キロの開通と合わせ全体の約 40%が開通した。</p> <p>3/28・尼崎市と災害応援協定を結ぶ 四日市市は兵庫県尼崎市と大規模災害時に円滑な応急・復旧対策をするための相互応援協定を結んだ。</p>
3 月	<p>3/1～7</p> <p>・春の火災予防運動 火災予防思想の普及を図るため管内一円において、立入検査、消防訓練等を実施。なお海上保安部と合同で船舶の立入検査も併せて実施。</p> <p>3/20・高規格救急自動車増強 朝日川越分署の 2 B を高規格に更新配備。</p>	

四日市市消防音楽隊活動状況

四日市市消防音楽隊は、四日市市政百周年を記念して平成9年8月に、四日市市消防職員、四日市市職員及び音楽愛好家の総員37名によって結成した吹奏楽団です。隊員は、通常はそれぞれの職場で活躍しながら練習に取り組み、消防行政の広報媒体として、重要な役割を果たしています。

演奏活動は、消防行事・市及び県の記念行事が中心ですが、現在では、地域のイベントにも幅広く参加し、市民の皆様に親しまれる消防音楽隊を目指して活躍しています。

4月	7日(土)	エキサイト四日市・バザール'2000
4月	7日(土)	楠町さくらまつり
4月	12日(土)	第四回 全国消防音楽隊フェスティバル
5月	12日(土)	東海5県軟式野球大会
7月	22日(日)	第38回 四日市市消防団操法大会
8月	4日(土)	稲葉三右衛門 献花式
8月	15日(土)	富田夏まつり
8月	25日(土)	日永ふれあい祭り
11月	3日(土)	消防フェスタ 2001
11月	11日(日)	第14回全国スポーツ・レクレーション祭り(グランドゴルフ大会)
11月	24日(土)	三重県豊かな海づくり大会
12月	2日(日)	常磐地区交通安全フェスティバル
1月	13日(日)	四日市市消防出初式
2月	24日(日)	消防ふれあい広場

四日市市消防音楽隊編成表

(平成14年4月1日現在)

隊長	楽長	木管(人)		金管(人)		打楽器(人)		カラーガード
		クラリネット	5	トランペット	4	パーカッション	3	
		フルート	2	トロンボーン	3			
		オーボエ	1	チューバ	2			
		ファゴット	1	フレンチホルン	3			
		Tサキソフォン	2	ユーフォニウム	2			
		Aサキソフォン	3					
(1)	(1)	(15人)		(14人)		(3人)		(10人)
合計		43人						

平成14年度消防重点事業

1 救急分駐所の整備について

小山田地区市民センター内に救急分駐所を設置して、本市西南地域における救急車の現場到着時間を短縮し、救命率等の更なる向上を図る。

2 災害対策事業について

地震等の大規模災害対策の重要性を踏まえ、消防車両の更新等消防活動能力の向上を図るほか、緊急消防援助隊が有事の際に有効に機能できるように、県内あるいは県域を超えた合同訓練を継続的に実施する。

また、自治会単位で組織する自主防災隊の結成の促進、あるいは訓練及び研修会等を通じて市民防災隊の充実を引き続き図るとともに、防火防災教育を充実し、小中学生の防火防災意識の発揚に努めるほか、耐震性貯水槽の増設、既存防火水槽の簡易耐震化の施工及び組み立て水槽等の整備など水利の多様化を図り災害対応能力の向上に努める。

3 救急業務の高度化について

ますます増加する救急出場に対し、高度で適切な応急処置が求められていることから、救急救命士及び救急隊員の養成及び研修等を引き続き計画的に進めるとともに、医療関係機関との連携を図り、応急手当の質を向上させるなど救急業務の高度化を図る。

また、病院到着前の応急手当の有無によっては、救命率に大きな影響を与えることから、市民をはじめ企業等各種団体に対して応急手当の普及啓発を図る。

4 救助体制の整備

訓練等を通じて救助隊員の練度を高め、増加する救助救出事案に対し適切に対処するとともに、昨年に引き続き水難救助を行う隊員の養成及び水中活動のできる資機材を配備し、水・陸における救助体制の強化に努める。

相互応援協定

当該市町村だけでは対処し得ない大規模広域災害や市町村境界付近で発生した災害等に対し、応援協定を締結して、円滑有効な防ぎよ活動を実施し、災害による被害を最小限にとどめようとするため、本消防本部においては下記に示すとおり各市町村と応援協定を締結し、消防力の効率的な運用を図っている。

(1) 消防相互応援協定

協 定 名	締 結 年 月 日	協 定 市 町 村
三重県内消防相互応援協定	平成10年7月1日 締結	四日市市長以下県内69市町村長、7消防組合管理者及び三重県知事

(2) 船舶消防に関する応援協定

協 定 名	締 結 年 月 日	協 定 市 町 村
船舶に関する業務協定	昭和38年5月24日 締結 昭和46年5月24日 締結	四日市市消防本部、四日市海上保安部 (注) 従前の協定を全廃し、締結したもの

(3) 高速道路における消防応援協定

協 定 名	締 結 年 月 日	協 定 市 町 村
高速自動車国道近畿自動車道 名古屋・亀山線消防相互 応 援 協 定	昭和50年10月22日 締結 昭和55年4月1日 改定 平成6年3月1日 改定	四日市市、桑名市、鈴鹿市、亀山市、 長島町
高速自動車国道近畿自動車道 名古屋・神戸線消防相互 応 援 協 定	平成14年3月1日 締結	四日市市・桑名市・長島町・ 木曾岬町・川越町